



- ①今年5月に竣工した新浜町の造船工場。3000㎡の敷地に立つ工場は鉄骨造り2階建て、延べ床面積1300㎡を超える。
- ②工作機械は完全オートメーションではない。造船は人の技術の結集である。
- ③船体はすべて手づくり。船主や基部の曲線は、炎と水で厚い金属板をたわませて徐々に曲げていく撓鉄(ぎょうてつ)という技が使われる。経験と勘が求められる高度な技だ。
- ④新工場ではパーツ製作の工程を見直し、1ヶ月近い工期の短縮を実現できた。
- ⑤設計にはCADが使用されている。
- ⑦復興第1号船、泉澤水産の第58清水丸。
- ⑧甲子町には、本社と釜石工場をおく。



壊滅的な被害を受けた大槌町吉里吉里の造船工場。建造中の船も流された。

発信!!  
いわての  
力こぶ

# オンリーワンの船を造り水産業の復興に貢献

東日本大震災では三陸沿岸の造船所のほとんどが壊滅的被害を受け、流出・損壊した漁船は2万隻を超える。釜石市に本社をおく株式会社小鯖船舶工業も大槌町の造船工場全てを流されるという悲劇に見舞われたが、不屈の精神で今年5月には新工場が完成した。地元水産業の復興に向け、新たな船出をきった同社の小鯖専務に話を聞いた。

## アルミ船建造の技術を磨きあげ 全国各地からの注文に対応

世界有数の好漁場を有する三陸沿岸。基幹産業の水産業を支えるインフラ産業のひとつが、漁船の建造や修繕を担う造船業だ。ここ岩手にも多くの造船会社が立地するが、釜石市の株式会社小鯖船舶工業はアルミ軽合金船の建造に注力し、その高い技術力で全国各地からの注文に応えている。

「アルミ船は、量産型のFRP(繊維強化プラスチック)と違い単品製作だから、船主の細かな希望にも応えられる。オンリーワンの船づくりが当社の強みです」。

明快に話すのは、代表取締役専務の小鯖利弘さん。同社の創業は昭和39年と造

船関係では比較的新しいが、アルミ漁船建造の実績は30年近く。知床半島沖での冬期の漁に対応した砕氷可能な船を造るため、より軽量で耐久性に優れたアルミ軽合金の知識や技術について専門家の指導を受け、溶接や組立技術を磨いてきた。

これまでの実績は漁船のみならず、官公庁船はじめ世界最大級のアルミ船・テクノスーパーライナー建造に関わったことも。現在は19tクラスを主流に、20~100tクラスの漁船を建造する。取材時、新浜町の工場では99tの大型キンメ延縄漁船の組立作業がまさに佳境。この後は、来夏までに2隻の30tサンマ棒受網船の建造が控えているという。培ってきた金属加工の技術で、多様な用途の造船に取り組んでいるのだ。

## 震災から1年後には新工場完成 復興の先を見つめ、日々前進

そんな同社も東日本大震災では大きな被害を受けた。船越湾の南、大槌町吉里吉里地区にあった造船工場は21mを超す大津波に襲われ、工場設備はもちろん3月20日に進水式を控えていた北海道根室のサケマス船までも流されてしまったのである。

釜石市役所で震災に遭遇した小鯖専務は、その足で支援センターへかけつけて物資やボランティアの調整に没頭。従業員からの報告で工場敷地の地盤沈下は把握していたものの、1ヶ月近く支援活動に関わった。「当社の問題は『どこでやるか』だけ。選択肢なんてないから、悩むこともなかった」。その言葉通り、あとは再起に向けて奔走。釜石市への移転を目指しての用地確保、さらに造船業への自治体や日本財団からの支援も実現させる。なにより、建

造途中で流されたサケマス船がほとんど無傷のまま三陸沖で発見されたのは、奇跡というべき幸運だったと小鯖専務。船は船尾にあった多少のダメージを直し、夏からのサンマ漁に間に合った。「まさに我が社にとっての希望の光になった」と振り返る。

いっほう新しい工場用地は昨秋に決定し、12月から工事が着工。当センターも溶接機械などの設備貸与に加え、設備購入費に関する支援を行った。そして今年5月、待望の竣工式が実現したのである。復興第1号となったのは、同じ釜石市に事業所をおく泉澤水産の定置網漁船2隻だった。

来年、同社は創業50周年を迎える。未曾有の震災を越えての50年も、小鯖専務は「通過点でしかない」ときっぱり。そして「その日を自分はどういう風に生きるかの方が大事」と話す。一日として同じ日はないからこそ、立ち止まってはられない。復興のその先を、もう小鯖専務は描いている。

我が社の力こぶはコレ!

人との出会いでもらう  
“勇気”が原動力です

会社経営やさまざまな活動を通じ人と出会い、改めて自分は生かされているのだと実感。被災したことで、その思いはより強くなりました。悩んでいては商売もうまくいかないから前に進むしかない。そんな勇気も、出会いからいただいています。



代表取締役専務  
小鯖利弘

会社名 株式会社小鯖船舶工業  
所在地 釜石市甲子町第9地割248-3  
電話 0193-27-3001  
造船工場 釜石市新浜町2-281-27  
電話 0193-31-1333  
代表者 小鯖利弘  
創業 昭和39年7月  
従業員 30名(平成24年8月31日現在)  
業種 鋼船、アルミニウム船、木船およびFRP船の建造ならびに修理。

【支援企業紹介】釜石市  
株式会社小鯖船舶工業

